

# 『落第忍者乱太郎』における尼崎の地名による命名

——尼崎の「聖地」化の要因について——

西 田 隆 政

The Characters Named after the Places in Rakudai Ninja Rantaro

——The Reason why Amagasaki City becomes the “Holy Land” ——

NISHIDA Takamasa

**Abstract :** The purpose of this study is to analyze the naming of the characters in Rakudai Ninja Rantaro. The result of the study reveals that the characters named after the places in Amagasaki city are of great significance and cannot be ignored. Therefore, the fans of Rakudai Ninja Rantaro explore Amagasaki city as the “Holy Land” for them.

## 1 はじめに

『落第忍者乱太郎』<sup>1)</sup> (略称「落乱」) 尼子騷兵衛作の人気マンガ作品である。1986年4月より『朝日小学生新聞』に連載され、2012年10月現在、単行本は、あさひコミックスより52冊刊行されている。それを原作とするアニメ作品である、『忍たま乱太郎』(略称「忍たま」)は、NHK教育放送で1993年4月より放送が開始され、第20期まで制作がすすんでいる。作品開始より20年以上を経過しても、その人気には根づよいものがある。

当初は、日本の戦国時代を舞台に、主人公の忍術学園1年は組の生徒と先生たちと、周囲の人々との交流やライバル関係を軸とした、ギャグマンガであった。しかし、作品が人気を博して長期化するとともに、徐々に作品の世界が拡大し、今では、1年生から6年生までの生徒が登場し、さらには、学園をとりまく人々の数も増加し、ギャグの雰囲気はのこしつつも、一大戦国絵巻ともいえるものとなりつつある。

作者は、兵庫県尼崎市出身でもあり、地元に着愛をもち<sup>2)</sup>、この作品のキャラクターの命名に尼崎の地名をもちいていることが知られている。そして、近年、作品のファンが命名のもととなった尼崎の地を「聖地」<sup>3)</sup>として、探訪するようになった。

本稿では、『忍たま乱太郎』に登場するさまざまな人物の命名方法を検討したうえで、それぞれの特徴を整理する。そして、それを「聖地」の探訪のあり方にも関連させて、その意義をかんがえていくことにしたい。

- 
- 1) 本稿のもととなる発表では『忍たま乱太郎』の名称を題目に採用したが、本稿は登場人物命名を検討するために、マンガ版を使用し、論題の作品名称を変更した。
  - 2) 地元の金融機関、尼崎信用金庫のイメージキャラクターは尼子騷兵衛作である。また、「聖地探訪」の拠点ともなっている、七松八幡神社が『落第忍者乱太郎』の登場人物によるお守りや絵馬の作成に登場人物を使用することも許可している(神社宮司談：サイト「尼崎情報局」七松神社の記事を参照)。現在でも、七松八幡神社宮司と作者は連絡をとれる関係とのこと(2012年5月28日に稿者が宮司との談話中に確認)。
  - 3) アニメやマンガでの舞台の「聖地」探訪とその実態については、柿崎(2005)ドリルプロジェクト編(2010)を参照。後者では尼崎市の『落第忍者乱太郎』の「聖地」もとりあげられている。

## 2 尼崎の地名による命名－忍術学園の生徒

『落第忍者乱太郎』においては、忍術学園の生徒たちが、もっとも中心となる登場人物である。2012年の時点では、44名とされる。それを学年別に整理する。そのうち、名字<sup>4)</sup>の命名の由来が尼崎の地名のものをゴチック体で□にかこんだ。また、類似の命名の例として、名字の命名の由来が近隣の地名のものをゴチック体でしめした。また、忍者や歴史上の人物等を由来とするものには下線を付した<sup>5)</sup>。

(1) 1年は組 **猪名寺**乱太郎, **撰津**のきり丸, **福富**しんべエ (主人公3人組)

黒木庄左エ門, **二郭伊助**, **笹山兵太夫**, **夢前三治郎**, **加藤団藏**, **佐武虎若**, **山村喜三太**, **皆本金吾**

1年い組 **黒門伝七**, **任暁佐吉**, **今福**彦四郎, **上ノ島**一平

1年ろ組 **鶴町**伏木蔵, **二ノ坪**怪士丸, **初島**孫次郎, **下坂部**平太

2年 **池田**三郎次, **川西左近**, **能勢久作**, **時友**四郎兵衛

3年 **伊賀崎孫兵**, **神崎左門**, **次屋**三之助, **富松**作兵衛, **浦風**藤内, **三反田**数馬

4年 **平滝夜叉丸**, **綾部**<sup>6)</sup>喜八郎, **田村三木エ門**, **齊藤タカ丸**

5年 **久々知**兵助, **尾浜**勘右衛門, **不和雷蔵**, **鉢屋三郎**, **竹谷**八左エ門

6年 **潮江**文次郎, **立花**仙蔵, **中在家**長次, **七松**小平太, **善法寺**伊作, **食満**(けま)留三郎

2012年の時点での、生徒の一覧である。44名中尼崎の地名由来が21名、近隣の地名由来6名である。尼崎地名由来が半数ちかくをしめるだけでなく、それが1年ろ組, 3年, 5年, 6年と、特定の学年や組に集中しているのが理解される。

作品開始から登場した主人公3人組のいる1年は組では、主人公の猪名寺乱太郎以外には、尼崎の地名のキャラクターは存在しない。また、近隣地名や歴史上の由緒ある名前由来の名字もある。この点からすると、当初、尼崎の地名は、命名の方法のひとつであっても、学園の生徒の基本となる命名の方法ではなかったことになる。

ところが、3巻から登場した2年生の池田三郎次、川西左近、能勢久作の3人が、いずれも北摂の隣接した地域(池田市・川西市・能勢町)の名称であったあたりから、学年ごとに、ある程度の名前の統一性が意識された可能性がある。その後、14巻から登場した1年ろ組の鶴町伏木蔵、二ノ坪怪士丸、下坂部平太、初島孫治郎が、いずれも尼崎の地名の名字であり<sup>7)</sup>、この段階では、尼崎地名は、忍術学園の生徒の名字として、積極的に使用されるようになっていく。

さらに、全員が尼崎の地名由来の名字である、6年生では、名前が著名な忍者由来<sup>8)</sup>であることもあって、命名の統一性をとるためという、尼崎の地名の位置づけが明確になっている。食満留三郎(22巻登場)、中在家長次(23巻登場)、立花仙蔵(23巻登場)、七松子小平太(24巻登場)、善法寺伊作(26巻登場)、潮江文次郎(29巻登場)の6人の段階では、基本的に尼崎の地名イコール忍術学園生徒の名字ということが理解されるようになっていく。

以降も、3年生の神崎左門(29巻登場)、富松作兵衛(35巻登場)、三反田数馬(35巻登場)、次屋三之助(36巻登場)、浦風藤内(36巻登場)とつづき、5年生の竹谷八左エ門(26巻登場)、久々知兵助(36巻登場)、1年い組の今福彦四郎、上ノ島一平(以上40巻登場)と、おおくの新登場のキャラクターが尼崎の地名由来の名字で、かつ、特定の学年やクラスに使用されるようになっていく。

このように、尼崎の地名が、作品の展開とともに、忍術学園の生徒の名字に集中的、かつ、まとまりを意識して使用されている。これは、窪菌(2008)で、鳥山明作のマンガ『ドラゴンボール』(全42巻1984~1995集英

4) 「姓」「苗字」ではなく、「名字」とした。日本での「姓」は「源平藤橘」ともされる。また、「苗字」よりも一般的な「名字」の表記を使用した。

5) 命名の由来については、尼子(2010)ニュータイプ編(2011)、落第忍者乱太郎のサイトにて確認。

6) 綾部は京都府綾部市(旧丹波国)があり、近隣地名の可能性もあるが、知人の名字からとする注3の説による。

7) 1年ろ組では、伏木蔵、平太、孫治郎が能面の名前という共通点もある。

8) 善法寺伊作の名前伊作だけは、作者の知人によるとされている。

社)での命名の方法が、各グループにより、定型化されていることが指摘される (pp.159-163)<sup>9)</sup>ように、作品の登場人物の所属するグループを明示するという点で、有効な方法といえよう。

ただ、この作品において、尼崎の地名が命名に使用されているのは、忍術学園の生徒だけではない。次章では、その他の登場人物等で尼崎の地名が使用されている例を検討する。

### 3 尼崎の地名による命名－その他の登場人物等

作品内で尼崎の地名を名字とする登場人物は、忍術学園の生徒だけではない。作品の初期から、いくつかの例をみることができる。2巻に登場する田能さゆりは、尼崎市北部の伊丹空港近隣の田能を名字の由来とする。父田能弥五郎の敵を60年さがしつづける。その敵が塚口水堂で、名字の塚口が阪急神戸線の駅名ともなる地名で、名前の水堂がJR立花駅の北西にある地名で、ともに尼崎市にある。ただし、敵討ちの結末は、ギャグマンガらしく、田能さゆりの早とちりが原因であることがわかり、和解することになった。これは、尼崎の地名同士で関連させている例といえよう。

3巻に登場する、キクラゲ城の家臣、定光寺与エ門は、尼崎市の東部神崎川沿いの地名が名字の由来である。城の若様で67歳の木耳良兼に忠義をつくす部下で、盗賊退治で忍術学園の生徒と協力した。

17巻に登場する、西長洲本通九丁目は、JR尼崎駅の南側の地名が名字の由来で、弟は西長洲本通十番一号である。オニタケ城の安月給の忍者で、しんべエの実家である福富屋に泥棒にはいった。

また、17巻に登場する、学園長の友人である金楽寺の和尚は、JR尼崎駅と阪神尼崎駅との間にある地名金楽寺がその由来である。かつて忍者であったが、現在は和尚をつとめている。これは、名字ではないものの、通称名のようなものであり、名字に準じるものであろう。

忍術学園の生徒以外で尼崎の地名を名字の由来とする者は、数もかぎられており、さらには、忍術学園の生徒の命名に積極的に尼崎地名を採用する以前に、名づけられたものとかんがえられる。尼崎の地名の登場人物として活躍している6年生が登場する22巻以前でもあり、まだ、尼崎の地名を忍術学園生徒に命名することを意識する以前ともいえよう。

その他の尼崎の地名由来では、村の名前が3例ある。小田村は、3巻と25巻登場で、忍術学園からは距離のある村である。杭瀬村は、3巻と28巻登場で、忍術学園教員を退職した大木雅之助が居住する。園田村は、42巻登場で、タソガレドキ城領地である。

村の名前は、人物の名字ほどの積極的な命名の理由はなさそうである。さらに、数自体少数であり、忍術学園生徒の命名のようなまとまりを意識したものではなく、あくまでも単発的なものである。

以上、忍術学園生徒の名字以外で使用される尼崎の地名は、例が少数であるうえ、学園生徒に集中して名づける以前に命名されたものが大部分である。この点からすると、作品における尼崎の地名由来の命名は、現在の作品世界の進展においては、基本的に、忍術学園生徒に対するものとして意識されているといえる。

### 4 駄洒落による命名－忍術学園教員と敵方忍者

作品内における命名で、とりわけ数のおおいのが、駄洒落によるものである。とくに、一人前の忍者として活躍する人物においては、もっとも目につく命名法となっている。

忍術学園教員は、作品初期では、とくに、駄洒落の命名は意識されていない。1年は組担任で教科担当の土井半助と1年は組実技担当の山田伝蔵と学園長先生の大川平次渦正は、1巻の最初の話から主人公3人組とともに登場し、原メンバーともいえる存在である。また、くの一(女性忍者)教室教員の山本しな(1巻登場)、忍術学園剣術指南の戸部新左エ門(1巻登場)、「お残しは許しまへんでー!!」で有名な食堂のおばちゃん(名前不詳:2巻登場)と、最初期から登場する学園関係者にも、駄洒落による命名はおこなわれていない。

9) 代表例としては、サイヤ人がカカロット(キャロット)、ベジータ(ベジタブル)、バーダック(英語での牛蒡)、ラディッシュ(ラディッシュ:大根)、ナッパ(菜っ葉)のように、サイヤ人字体が「野菜」の音転で、グループ所属の登場人物の命名がすべて野菜由来であるのがあげられる。

それが、1年は組のライバルで優等生集団の1年い組の教科担当、安藤夏之丞(餡ドーナツの上:7巻登場)、実技担当の厚着太逸(アツギタイト<sup>10</sup>):7巻登場)、忍者としてやりなおすために忍術学園にやってきた樋屋奇応丸(ひやきおうまる・樋屋製菓の薬品名「ひやきおうがん」:7巻登場)のあたりから、徐々に駄洒落による命名がおこなわれるようになる。

作曲家馬飼野康二命名のゲテモノ忍者食研究家、黒古毛般蔵(黒焦げパン:10巻登場)は、いかにも食事にならない料理をつくる人物の名字である。1年は組の教育実習生の大間締堅蔵(大真面目+堅い:13巻登場)は、真面目すぎるのが欠点で苦勞している。1年ろ組教科担当の斜堂影磨(シャドー+影:14巻登場)は、根暗で神経質なタイプであることをしめす。忍術学園の事務員の小松田秀作(困った就職:19巻登場)は、人柄はよいものの役立たずの事務員である。2年い組の教科担当の松千代万(マッチョマン:25巻登場)は、極端な恥ずかしがり屋だが恐い顔で怪力を発揮する。忍術学園の事務員の座を狙う出茂鹿之介(でもしか:26巻登場)は、手裏剣や火薬や事務作業と能力はあるものの性格に難がある。学園長先生の旧友のひ孫である突庵坊太(とつあん坊や:30巻登場)は、1年は組で教育実習するも合格できない。実戦経験豊富なくの一忍者、北石照代(期待しているよ:30巻登場)は、1年い組で教育実習するも期待はずれで不合格、派遣忍者になる。

上記安藤夏之丞以下11名の学園教員や関係者は、いずれも名前が駄洒落であるだけでなく、そのなかには、名前が人物の特徴にうまく合致して、名前だけで行動や性格等が想像されることを意識される命名もある。『朝日小学生新聞』連載であり、とくに、彼らの登場のころにはNHK教育でのアニメ放送も開始され、想定される視聴者である、幼稚園児や小学校低学年児童にも、わかりやすいように配慮された可能性もあろう。

この駄洒落による命名は、忍術学園関係以外の忍者にも例がおおく、忍術学園の最大の敵方である、ドクタケ城の忍者隊にも例がある。頭が巨大すぎてすぐにうしろにひっくりかえる、稗田八方斎(冷えた八宝菜:6巻登場)は、悪だくみをする忍者隊の首領である。大黃奈栗野木下穴太(大きな栗の木の下あなた:11巻登場)はドクタケ忍者部隊長、横槍入十郎(横槍入れ:14巻登場)はドクタケ代官館の代官、黒戸カゲ(黒蜥蜴:27巻登場)は教育係のくの一と、幹部クラスには駄洒落の命名が使用されている。

また、相模国(神奈川県)足柄山にある風魔流忍術学校は忍術学園と交流があり、この関係者では、教員の山野金太(山の彼方:12巻登場)、卒業生の安中茂作(暗中模索:34巻登場)と安野壤(案の定:34巻登場)がいる。

さらに、風魔忍者をおそう暗殺者、海松万寿鳥(ミルマスカラス:33巻登場)と土寿鳥(ドスカラス:33巻登場)というプロレスラー由来の駄洒落命名のコンビがいる。

比較的あたらしい例では、タソガレドキ城のタソガレドキ忍軍をひきいる雑渡昆奈門(ざっとこんなもん:37巻登場42巻名前判明)とその部下諸泉損奈門(そんなもん:42巻登場45巻名前判明)、同鉄砲隊隊長の左茂有南(さもありなん:37巻登場42巻名前判明)がいる。この命名には、おなじ城でのグループ名の要素もある。

その他にも、作品内に登場する数おおくの城に所属する忍者たちには、このような駄洒落による命名の例が多数みられ、忍者の命名として、ひとつの定型となっている。ただ、そのなかでも、忍術学園の関係者には、名は体をあらわす、傾向の者がおおく、駄洒落による命名が有効に利用されているといえる。

さらには、忍者以外の登場人物でも、茶碗マニアのさむらいである新出茂橋郎(死んでも走ろう:7巻登場)、ドケチな大地主である成金土地田エ門(成金土地だ:9巻登場)、落ちぶれた貴族である南野園是式(なんのそのこれしき:16巻登場)、抽象画専門の絵師である干菓子山瀬井(画家東山魁夷から:19巻登場)、園田村の長老である手濁潔斎(手形決済:42巻登場)、盗賊にねらわれた屋敷の主人である敏保緋真魚(貧乏暇な:43巻登場)等、ギャグマンガという作品ゆえ、駄洒落は有効な命名方法となっている。命名とその人物の特徴が関連づけられている人物もみられる。忍者にかぎらず、作品における、命名の基本となるパターンとなっているのである。

10) アツギは神奈川県海老名市にあるストックキングやタイトで有名な繊維メーカー。1960年代テレビCMで、楠としえのうたう「アツギのタイトで」が評判となった。稿者にもそのフレーズの記憶がある。

## 5 グループごとの命名

4章でふれた、駄洒落による命名以外の命名法としては、特徴をもったグループを、特定の方法で名づける例が、数おおくある。忍術学園の女子部である、くの一教室もその一例である。

まず、ユキとトモミは1巻6章から登場し、主人公3人組とのカラミもおおい<sup>11)</sup>。そのほかには、しおり、そうこ、あやか、みか（以上31巻登場）がいる。基本的に、現代にもみられる普通の女子の名前であり、かなによる名づけで、とくにひねりのないということも、グループとしての統一性をしめしている。

忍術学園と協力関係にある、兵庫水軍は海の男の集団である。リーダーは、兵庫第三協栄丸（4巻登場）である。この一族は、兵庫を名字とし、船名を名前とする。弟は兵庫第四協栄丸（29巻登場）である。

その配下である、鬼蜘蛛丸、蜉蝣、疾風（以上20巻登場）、東南風（やまじ）、間切（まぎり）、航（かわら）（以上23巻登場）、義丸、舳丸（みよしまる）、網間（あとい）（以上29巻登場）たちは、いずれも船に関係する命名で、「丸」や船の部分や航海に関する名前がつけられている。

4章でもあげたドクタケ忍者隊では、幹部は駄洒落命名であるが、配下の忍者はパターン化された命名である。ドクタケ六人衆（2巻登場）は、稗田八方斎直属の部下で、風鬼、雷鬼、雨鬼、雲鬼、雪鬼、光鬼と、「天候関係の漢字一字+「鬼」」による命名である。それ以外のドクタケ忍者隊15名（6巻以降順次登場）もすべて「漢字一字+「鬼」」の命名で統一性がとられている。また、ドクタケ忍術教室の通称ドクたま4名（22巻登場）は、しぶ鬼、いぶ鬼、ふぶ鬼、山ぶ鬼と、これも「一字+「ぶ」+「鬼」」とパターン化されている。

これらについては、グループの統一性をはかることで、作品としてのわかりやすさをだしているとかんがえられる。また、それだけでなく、おなじ忍者であっても、まだ一人前でないものは、グループでのパターン化された命名にとどまり、実力のある忍者とみとめられた者だけが、駄洒落によって命名されている。もちろん、4章にあげたタソガレドキ城のように一人前の人物でもグループ内での命名の関連性が意識されている例もあるが、命名自体は駄洒落によるのであり、ここにあげたような単純なパターン化ではない。

作品内には、人名以外にも、命名に統一性のあるものがある。それは、戦国時代の群雄割拠を象徴する城の名称である。現時点で40の城が登場するが、そのうちの31の城がキノコ名を命名の由来としている。以下、50音順に掲載する。基本的に城名はキノコの名であり、例外には対をなすようなものがある<sup>12)</sup>。

- (2) アミタケ城（7巻登場）、ウスタケ城（24巻登場）、エゴノキタケ城（21巻登場）、エノキ城（1巻登場）、オシロイシメジ城（23巻登場）、オニタケ城（17巻登場）、カラスタケ城（28巻登場）、カワキタケ城（36巻登場）、キクラゲ城（3巻登場）、クサウラベニタケ城（23巻登場）、サンコタケ城（21巻登場）、シイタケ城（1巻登場）、シメジ城（1巻登場）、ショウロ城（4巻登場）、スッポントケ城（21巻登場）、セミタケ城（7巻登場）、チャダレアマミタケ城（21巻登場）、ツルタケ城（9巻登場）、ドクアジロガサ城（27巻登場）、ドクササコ城（7巻登場）、ドクタケ城（2巻登場）、トフンタケ城（44巻登場）、ナメコ城（2巻登場）、ナラタケ城（7巻登場）、ヒダハタケ城（24巻登場）、ヒラタケ城（9巻登場）、ベニタケ城（10巻登場）、ハウケタケ城（17巻登場）、ホテイタケ城（35巻登場）、マイタケ城（5巻登場）、ヤケアトツムタケ城（23巻登場）

当初は、エノキ城、シメジ城、シイタケ城、ナメコ城と、一般的な食用のものが命名の中心であったが、徐々に多様なキノコが命名に使用されるようになる。ドクタケ城以降、ドクササコ城、オニタケ城、スッポントケ城、トフンタケ城等、毒キノコを命名の由来とする城も登場し、それらは、いずれも好戦的なよくない城として意識

11) アニメにオリジナルで登場する大川シゲは、ユキとトモミとの3人組である。学園長の孫娘で、しんべエと仲良しという設定である。

12) そのほかには、アカトキ城とオーマガトキ城とタソガレドキ城（以上37巻登場）、カワタレドキ城（46巻）、マツホド城（7巻登場）の時刻に関する名称、クモの子城と鶴の巣城（以上1巻登場）の命名上の対、タケノコ城（山にあるものでキノコと関連性：5巻登場）とナルト城（食物：5巻登場）がある。

されている。

それ以外で、統一名称のあるものには、1年は組の山村喜三太のペットであるナメクジがある。すべて、ナメ太郎、ナメの介（以上16巻登場）のように、全ナメクジ28匹が「ナメ+当時の人物名の一部」で統一性がとられている。作者が作品世界における名称の統一性を意識していることをしめす、好例でもある。

一般的に、作品世界の拡大とともに、数おおくの人物が登場するようになり、命名にも混乱をきたし、作品理解上の障害となることもありうるが、統一性のある命名を実施するならば、そのような危険性は回避可能である。マンガは52冊となり、アニメも20期をむかえて、作品世界はますます拡大し、登場人物や登場する地域や城等は増加の可能性が大であるが、その点についての配慮は、統一性をたもつという命名方法の面からは、なされていると想定されるのである。

## 6 命名からの忍術学園生徒の位置づけと「聖地探訪」

以上、2章から5章までで、『忍たま乱太郎』における登場人物の命名について、検討してきた。その結果として、あきらかになったのは、以下の9点である。

- (3) a 最初期の登場人物では、忍術学園生徒と教員ともに特定の命名法は存在しない。→2章・4章
- b 忍術学園生徒の命名の半数以上は尼崎の地名由来である。→2章
- c 作品世界の進展とともに、尼崎の地名を生徒に積極的に使用するようになった。→2章
- d 尼崎の地名による命名は、学年や組という枠組みの統一性を意識している例もある。→2章
- e 忍術学園生徒以外の尼崎の地名による命名は、散発的な使用にとどまる。→3章
- f 一人前の忍者は、駄洒落により命名される例がおおい。→4章
- g その際に名が体をあらかず例もある。→4章
- h 忍者以外の人物も駄洒落により命名される例がある。→4章
- i 特徴をもったグループは統一性のある命名がなされることがおおい。→5章

上記の検討結果から、『落第忍者乱太郎』においては、命名の方法から登場人物に階層を設定することができそうである。

- (4) 第1の階層 最初期からの登場人物（主人公3人組・担当教員）：特定の命名法なし
- 第2の階層 忍術学園の生徒（作品展開で登場の忍術学園生徒）：尼崎の地名による命名
- 第3の階層 忍者や一般登場人物（学園教員・忍者・一般人）：駄洒落による命名
- 第4の階層 特定のグループ（ドクタケ忍者・兵庫水軍等）：統一性のある命名

第1の階層は主人公3人組やその担当教員で、作品世界がひろがった現時点でも活躍をつづけている。まさに、作品の中心となる登場人物である。第2の階層は、尼崎の地名での命名を中心とした学園の生徒たちで、現時点では委員会等の活動をとおして、上下の学年の交流もしつつ、作品世界で活躍している。第3の階層は、学園の教員をふくむ、忍者や一般の人々で、主人公3人組をふくむ学園の生徒たちは、作品世界で彼らと敵対したり交流したりしている。第4の階層は、特定の特徴をもったグループの人々で、彼らも学園の生徒たちとからんで作品世界で活躍するものの、大勢の中の一員という存在である。

ところで、命名における「良い名前」<sup>13)</sup>の条件として、森岡・山口1985には、以下のような7つの条件が指摘されている（p.111）。

- (5) ①ほかとはっきり区別のつく名前。

13) ここでの「良い名前」は、人名だけでなく、ありとあらゆる対象への言語による命名に関するものである。

- ②そのものの範疇が示されている名前（論理性）。
- ③そのものの性質がよく表現されている名前（表現性）。
- ④使用の目的や場に適合した名前。
- ⑤覚えやすく親しみやすい名前。
- ⑥使いやすい名前（長い名前やいいにくい名前はだめ）。
- ⑦ひびきのいい魅力的な名前。

上記なかで、命名の由来のわかりやすい類型的な命名ともいえる、第3と第4の階層の命名には、とくに②と③の条件が適合するという、特徴をみてとることができる。第3の階層の駄洒落はその命名の由来が一目瞭然であり、それが登場人物の個性とむすびつくこともあり、③の条件が適合する。②の条件についても、駄洒落を対応させて複数の人物に命名する例があり、あてはまることがある。また、第4の階層のグループでの統一した命名は、彼らがその一員であることを明示して作品内での役割も明確となることから、②と③の条件が適合する。

それに対して、第2の階層の命名は、一見するだけではその命名の由来が判然とせず、①から⑦の条件が明確にこれといってあてはまらない。名字である尼崎の地名は、知識がなければそれとわからず、②の条件は一目では理解されない。名前の由来となる忍者の名前等も同様である。しかも、名字と名前とで構成された、いかにも普通の命名であり、名字と名前とで一体化して構成されることのおおひ、駄洒落等の名前とは、命名の方針自体が相違する。第3と第4の階層では、命名の由来とその名前の傾向が誰にもわかりやすくすることを指向しているのに対して、第2の階層では、命名において、そのような露骨にわかりやすくするという要素がないということになる。

しかし、そのことが、逆に作品のファンにとっての魅力となる可能性がある。明示的ではないものの、すこし調査すれば、命名由来が尼崎の地名によることは、すぐに判明する。ただし、普通にマンガをよみ、あるいは、アニメを視聴する際には、そのような知識は不要であり、作品理解に直接かかわるものでもない<sup>14)</sup>。それを知識として保持していることは、作品のファンならでは、ある種の「特権」といえるものであろう。

そして、ファンによる尼崎の地名探訪が、「聖地」探訪ともなっている一因として、この命名の方法を想定することができるのではなからうか。その他の登場人物が特定のわかりやすい命名法によるのに対して、一見すると普通の命名にもみえる忍術学園の生徒たちの命名は一線を画しているからである。

尼崎市内にある命名の由来となる地名を探訪することは、ファン以外の者からすると作品理解のうえで意味のある行為にはとてもみえない。単なる地名であり、作品の情景にも直接むすびつかないものだからである<sup>15)</sup>。しかし、作品、とりわけ地名の名字をもつ忍術学園生徒のファンにとっては、それは作品世界を形成する人物の背景に存在する地名を探索するという特別な行為である。また、一般の人にはわからない、彼らにしか理解しえないという、一種秘密の「特権的」要素のあることも、ファンにとっては魅力のあることとなる。尼崎の地名由来の命名は、その点で有効に機能しているといえる。

他のマンガやアニメ作品での「聖地」探訪が、作品に登場した場面や情景を実際に現地で確認するということが主要な目的であるのに対して、『落第忍者乱太郎』の「聖地」探訪では、地名そのもの、またその地名の名標（地名表示・標識等）の発見と確認が主要な目的なのである。この一風かわった「聖地」探訪が成立するうえで、このファン以外にはわからない、また、他の登場人物の命名とは相違する、尼崎の地名による命名が意味をもつのではないかと、かんがえるのである。

14) 小学生を讀者に想定した作品紹介書である、加藤（2007・2011）には、登場人物の特徴の紹介はあっても、命名の由来の記述はない。一方、よりたかい年齢層の讀者を想定した尼子（2012）、ニュータイプ編（2011）には、命名の由来の記述がある。

15) 『落第忍者乱太郎』では、具体的にどの地域を舞台としているのかという点については明示されていない。ただ、「尼崎寺町マップ」（尼崎市 2001）で、登場人物が尼崎市内の寺院にいるイラストがある（尼子 2012 参照 p.15）。

## 7 おわりに

マンガの『落第忍者乱太郎』とそのアニメ版の『忍たま乱太郎』は、現在でも人気作品であり、今後どのような展開をするかは、不明な部分もある。今回の命名法の検討と分析は、あくまでも2012年10月現在での状況をふまえてのものである。しかし、忍術学園の生徒たちが中心となって作品世界が展開するというのは、この作品の人気をささえている部分であり、さらに、この命名の方針はつづいていくのではないかと予想される。

そして、ファンたちによる「聖地」探訪への熱気も、おとろえる様子はなく、現在もおおくのファンが尼崎市内を探訪している。その実態を確認するために、稿者は2012年8月1日に、甲南女子大学文学部日本語日本文化学科の学生5名とともに、実地調査をおこなった。それについては、別稿（西田2013）にてまとめる予定である。

### 参考文献

- 尼崎で観光（あまかん）編 2012『尼崎観光ガイド2012』あまがさき・街のみどころご案内委員会  
尼子騒兵衛 2012『落第忍者乱太郎公式キャラクターブック忍たまの友 天の巻』朝日新聞出版社  
柿崎俊道 2005『聖地巡礼アニメマンガ12ヶ所めぐり』株式会社キルタイコミュニケーション  
加藤裕樹編 2007『忍たま乱太郎キャラクター大図鑑』ポプラ社  
加藤裕樹編 2011『新忍たま乱太郎キャラクター大図鑑』ポプラ社  
窪蘭晴夫 2008『ネーミングの言語学 ハリー・ポッターからドラゴンボールまで』開拓社  
ドリルプロジェクト編 2010『アニメ&コミック聖地巡礼NAVI』飛鳥新社  
ニュータイプ編 2011『忍たま乱太郎アニメーションブック 忍たま忍法帖』角川書店  
森岡健二・山口仲美『命名の言語学 ネーミングの諸相』東海大学出版会  
西田隆政 2013『『落第忍者乱太郎』の「聖地」尼崎をめぐる』『女子学研究』3

### 参考サイト

- あまがさき情報局「七松八幡神社」（2009年8月11日の記事）  
[http://amahanako.blog.ocn.ne.jp/amajoh/2009/08/post\\_0252.html](http://amahanako.blog.ocn.ne.jp/amajoh/2009/08/post_0252.html)  
落第忍者乱太郎  
<http://www.gru-ran.com/rantarou/rantarou.html>

【付記】本稿は、2012年9月1日に甲南女子大学で開催された、第1回地域コンテンツ研究会での発表「『忍たま乱太郎』の「聖地」をめぐる」をもとに、そのなかでも、登場人物の命名方法について検討した部分を、修正加筆したものである。当日、また、後日、ご教示いただいた、皆様に、あつく、御礼申し上げます。